

平成30年度 学校自己評価表 (計画段階) ・ 実施段階)

77

福岡県立八女農業高等学校長 印

学校運営計画（4月）		評価（3月）		
学校運営方針	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指し、農業の意義や役割の理解と「農業に関する将来のスペシャリスト」として必要な専門知識・技術を習得させる。 校訓「自律・創造・協同」を旨としながらより良い校風の樹立に努め、「厳しさと苦しさに耐える自律心」、「感謝と思いやりの心」、自己実現のために必要な「創意工夫する創造力」を育成し、農業及び地域産業並びに地域社会の発展と活性化に貢献できる人材づくりを目指す。			
昨年度の成果と課題	重点目標	具体的目標		
【成果】 校外外で生徒の主体性を生かした様々な取組を行うことにより、地域に開かれた学校を体現することができた。またキャリア教育の充実を図り、生徒自らが生き方や進路を主体的に考え、取り組む力を育成したことで、早期の高い就職内定や、国公立大学合格をはじめとする進路実績でき、本校の教育活動に対する評価も高まってきている。 【課題】 本年度より30名の4学科体制をスタートさせた。弾力的なクラス編成など生徒の学びの希望を生かし、安心できる学習環境で専門性を確実に習得できる専門教育を目指す。	(1) 生徒の確かな学力の育成を図り、農業に関する将来のスペシャリストとして必要な専門知識・技術を習得させる。	① 学習目的の明確化と規律ある授業を展開し、日常の授業に対して熱心に取り組む態度を育成する。 ② 安心して授業に取り組む学校環境を作る。		
	(2) 生徒一人一人を見据え、学習への積極的な取組と活性化を実現するため、「基礎・基本の徹底」を図る。	① 教科・科目全領域において基礎学力の定着と充実に向け、授業の工夫改善を図り、きめ細かい指導を行う。 ② 少人数クラス・習熟度別学習の充実、ICTの活用を図り、生徒一人一人の学習能力の向上に努める。		
	(3) 自律心と思いやりのある心豊かな人間形成に向けた取組を推進し、人権意識の高揚やいじめの撲滅を目指す。	① 挨拶等の礼儀作法、時間厳守、掃除の徹底、服装等の基本的な生活習慣を確立するための指導を全職員で取り組む。 ② 学校の教育活動全般を通じた人権教育を推進し、生徒一人一人が大切にされることが実感できる学校づくりに努める。 ③ 全職員の情報網を活用して、いじめの発生防止と早期発見に努める。また、スクールカウンセラーや訪問相談員、スクールソーシャルワーカーの活用を図り、悩みを抱える生徒等への教育相談機能を活性化させる。 ④ 特別支援教育充実に向けた校内体制を活性化し、生徒の支援体制を整える。		
	(4) 学校の教育活動全般において、人として正しく判断し、行動できる生徒を育成する。	① 生徒会活動及び農業クラブ活動の活性化を図り、農業高校の特色を活かし実践力のある生徒を育成する。 ② 部活動加入を推進し、併せて学校活性化を図る。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
教務部	学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	各科目の学習目標や計画、評価方法を説明し、生徒に学習の見通しをもたせる。 LHRや朝読書から自らの在り方生き方を考えさせ、学習意欲を考えさせる。 考查前学習を放課後に実施して学習習慣を身に付けさせ、基礎学力の向上を図る。		
	規律ある授業を実施し、学習環境を充実させる。	教務規定や授業規律を理解させ、生徒の学習環境づくりに努める。 学習態度を育成するために、日ごろの取り組み状況を評価し、多面的に評価する。 定期考査後や学年別教科担当者会を実施し、情報共有や個に応じた指導を検討する。		
	専門高校の特色を生かした教育課程について協議する	新教育課程を見据え、各教科から教育課程の見直しを図る。 各学年における教育課程の円滑な実施に努める。 ディプロマポリシーに向けて、各科教育課程の検討を行う。		
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と心の教育の充実を図り、地域から信頼される生徒の育成	学習環境の整備と端正な身だしなみの指導を徹底し、落ち着いた環境で学校生活を過ごす。 校則の確実な周知を図り、全職員による一貫した指導を行うことで、規範意識を高め、問題行動の発生件数0を目指す。 生徒への声掛けや教師間の情報を共有し素早い対応を行う。		
	学校行事を通して自らを律し、鍛錬し、愛校心を育むとともに地域社会に貢献できる生徒の育成	生徒会活動や農業クラブ等への積極的な参加を通して、愛校心を育み、学校生活の充実度100%を目指す。 地域の活性化に繋がる活動に積極的に参加することで、地域を大切に思う気持ちを育成する。 学年・学科単位での指導を心掛け継続的な指導を行う。		
	自他の安全に対する意識を高める安全教育の充実と危機管理体制の整備	情報モラル教育を通して自他の気持ちを尊重する態度を育み、ネットトラブル等の発生件数を0にする。 授業や学校生活における生徒観察と情報共有を組織的に行う体制を整えることで、総合的に生徒の状態を把握する。 学校・家庭・関連諸機関等との組織間連携を密に行いトラブルの未然防止と素早い初期対応ができる体制を整える。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
進路指導部	生徒一人ひとりの希望進路を把握し、適切な進路指導を行う。	3学年担任との定期的な会議を実施する。		
		関係機関から情報収集を行い、生徒が必要とする情報を積極的に発信する。		
		生徒の進路希望を把握し、3学年や学科との情報の共有を図る。		
	学年や各科と連携して組織的な指導の充実を図る。	企業訪問と関係機関との連携により求人票を多く獲得する。また、生徒の適性に合った企業探しを支援する。		
		就職では、面接マナー講習会の実施とSPI指導を強化する。10月末までに内定率80%、1月末までに内定率100%を目指す。		
		進学では、面接や作文指導を徹底し、合格率100%を目指す。		
3年間を通じた進路指導の検討と充実に努める。	進路のしおりの改善に努め、生徒の活用を推進する。			
	課外授業を充実して学力の向上を図り、進路希望の実現を図る。			
	資格取得を推進する。			
保健部	生徒の健康状況の把握と理解、およびあらゆる領域での活用	生徒の健康状況の課題を把握・理解し、改善に向けた取り組みを進める。		
		あらゆる領域を活用し、健康の意義等を生徒へ正しく理解させ、改善に向けて継続的に支援する。		
		健康教育推進事業、SC、SSW、訪問相談員制度について、生徒・保護者へ周知し、積極的活用を促し取り組みを充実させる。		
	安心・安全で快適な教育環境づくりへの取り組み	各学期に美化コンクールを実施し、表彰を行うなど、校内美化活動について、生徒の意識高揚を図り清掃活動を徹底する。		
		本校薬剤師による教育環境の調査・点検を敢行し、改善を図ることで学習環境の「整美」を行う。		
		学年・教育相談委員会・SC等、関連機関との連携を図り、生徒支援に努める。		
委員会活動（保健委員会・美化委員会）の活性化と健康教育の充実	保健委員会と美化委員会を活用した健康教育等を充実させていく。			
	高等学校保健会への積極的参加、論文・ポスター・標語等の上位入賞をめざす。			
	「保健だより」等の健康に関する啓発活動の充実を図り、生徒自らが心身の健康管理ができるようにする。			
研修部	職員研修全体の企画・立案及び円滑な運営を図る	「主体的・対話的で深い学び」をキーワードとした新学習指導要領に対応するための職員研修会の実施。		
		学校の教育課題や職員のニーズに対応した研修を企画する。		
		ICTを活用した効果的な指導が実施できるように、電子黒板の活用を中心とした研修会を実施する。		
	初任者研修・教育実習生の指導力の育成に繋がる研修を教科・各学科・各分掌と連携して実施する	研究紀要「陽咩」を作成し職員の校内外での研修、初任者・先任者及び一般の研究授業、授業アンケートの分析結果等を掲載する。		
		研修部の研修のみでなく、OJTやメンター制を活用することで、学校全体が協力し総合的に研修を推進していく。		
		初任者や教育実習生の研修がスムーズに展開できるように関連機関との連絡や報告文書の送付を遺漏なく行う。		
図書館利用の促進を図り、知的好奇心を喚起する	初任者や教育実習生の指導力育成につながるように、指導教員のとの連携と研修の企画を行う。			
	図書館委員の指導の充実を図り、委員を中心とした「朝の読書」の実施や、読書の活性化を推進する。			
	図書館利用を増やしていくための蔵書の拡充やイベントの展開を行う。			
庶務広報部	式典・行事等の企画、立案及び円滑な運営を図る。	学校運営に係る企画、庶務全般の運営を円滑に行う（会議、行事に係る資料の印刷、管理等）。		
		防火防災避難訓練の企画、立案及び円滑な運営を図る。		
		表彰に係るデータの管理、表彰式の計画、表彰状の作成等を遺漏なく行う。		
	保護者との連携を強化し、PTA活動を活性化させる。	PTA行事、互助会行事、親和会行事に参加を促し、成功させる。		
		PTA総会、地域懇談会、PTA視察研修会等の企画、立案及び円滑な運営を図る。		
		広報委員会と連携し、八女農だより発行等で、本校の活動を発信して行く。		
広報活動を推進し、中学生や地域に浸透を図る。	各学科、各学年と連携を密にして、行事や実習等の情報を収集し、地元メディアと連携し、中学生や地域に発信して行く。			
	各学科の販売実習等の活動を庶務・広報部に事前連絡してもらい、FM八女等で発信する。また各新聞等での八女農業高校の記事を庶務・広報部に連絡してもらい、校内広報する。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
第1学年	基本的生活習慣の確立	朝のHRや授業等に遅れないように、担任・副担任及び学年で連携して指導する。		
		挨拶をすることがコミュニケーションの基本であることを理解させ、継続的な指導を行う。		
		教科担任との密接な連携を行い、学習習慣の確立を図る。		
	進路目標の決定	進路指導部と連携し、進路アンケート等を活用しての個人面談や保護者と連携して進路目標を決定していく。		
		部活動、生徒会活動、農業クラブ活動が希望進路を実現する上で大切であることを理解させ、積極的に取り組ませる。		
		各種検定・資格取得に向けて指導を徹底する。		
	規範意識の高揚	他人に優しく接する意識を持たせ、いじめが起きないように気を配り、教科担任・学年での連携を図り、迅速な対応を行う。		
		物事に対して、正しい判断力を身に付けられるように、HRを通じて継続的に指導する。		
		校則を遵守させ、頭髪・服装については、生徒指導部と連携を密にして、学年全体で指導する。		
第2学年	規範意識の深化	生徒指導部と連携して指導の充実を図り、生徒自らが校則を順守していくことで、中堅学年としての意識を高める。		
		問題行動につながる内容については情報を共有し、学年団として取り組む。		
		褒める指導を通して自己肯定感を育み、諸行事や学習活動に対して積極的な取組を促す。		
	基本的生活習慣の強化と学習環境の整備	基本的な生活習慣の指導や授業規律の指導を継続し、学習態度の向上を図る。		
		教室の環境を整える。（持ち物の整理・整頓、ごみの分別、清掃の徹底）		
		お互いに協力して学ぶ仲間作りの意識を持たせる。		
	進路実現に向けた指導の充実	個人面談等を通して生徒の掌握に努め生徒に対応したきめ細やかな指導を行う。		
		進路指導部と連携を図り、進路情報を提供し進路意識を高めさせる。		
		各種検定や資格の取得を積極的に取り組ませる。		
第3学年	基本的生活習慣及び規範意識の確立	進路決定に向け、無断欠席や遅刻者については放課後に居残り指導を実施する。		
		頭髪・服装については生徒指導部と協力し、カード指導を利用して徹底を図る。		
		進路を意識して、挨拶の徹底を図る。		
	進路実現に向けての意識づけ	進路指導部と連携して生徒に的確な情報を提供し、進路の明確化を図る。		
		個人面談及び三者面談を計画的に行い、希望進路を把握する。		
		進路指導部及び各教科と連携し、面接指導の徹底に務める。		
	最上級生として学校全体をリードする生徒の育成	生徒会・農業クラブ役員を中心に、生活面・学習面において学校をリードしていく意識づけを図る。		
		農業クラブ活動や八女農祭等行事の際に、1、2年生を指導できるよう支援する。		
		学校行事や学年集会等の訓話を通して八女農生としての自覚と愛校心を培い最上級生としての意識や態度を育成する。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
生産技術科	有意義な教育内容の精選と充実	2学年からのプロジェクト学習を計画的にすすめ、充実を図る。		
		各専攻の生産物の品質を高めブランド化を図る。		
		生産から販売までの系統的な学習を通して経営力を育成する。		
	希望進路実現に向けた組織的な指導	組織的な指導を行い規範意識や職業意識を高めさせる。（挨拶等の礼儀作法、時間厳守、服装・頭髪チェック、授業規律等）		
		1年生から具体的な進路先を研究させ（各生徒に応じた適切なアドバイス、進路指導室の活用、パソコンでの情報収集など）希望進路実現に向けて取り組ませる。		
		進路指導部や担任との連携を密にし、生徒個々に応じた進路指導を行う。（面接、小論文、4年制大学進学対策等）		
地域の要望に応え貢献できる教育活動及び学科のPR推進	販売実習や地域の保育園及び小・中学生等への体験授業などを積極的に行い、地域に根ざした教育の充実を図る。			
	生徒（1年生～3年生）を出身中学校へ訪問させ（各専攻生産物持参）交流を深めることにより、学科のPRをする。			
	体験入学で中学生に対してアピールできるように、講座内容の工夫・改善を図る。			
システム園芸科	教育内容の充実、指導の工夫・改善を図る	学科の特色を生かし、農業生産物の充実と付加価値のある農作物生産を構築する。 一年生に対して学科の内容を分かり易く説明し特色ある教育内容の充実を図る		
	基本的生活習慣の確立並びに風紀指導の充実を図る	毎時の授業において服装、頭髪、挨拶、言葉遣い及び時間厳守等の指導を行い規律ある学校生活を送らせる。		
	学習意欲の向上を図る	課題解決学習を積極的に取り組み、学習意欲の向上を図ると共に自主性を身につけさせ、生徒の探究心を引き出させる。		
		資格取得のための指導を強化し合格率の向上と上級の資格取得を目指させスキルアップを図り、進路実現に繋げる。		
生物利用科	学科の特色を活かした農業教育の実践と主体的な学習態度の育成	2学年からのプロジェクト学習を計画的にすすめ、充実を図る。		
		各専攻の生産物の品質を高めブランド化を図る。		
		生産から販売までの系統的な学習を通して経営力を育成する。		
	社会の一員としての生き方を学ばせる生活指導と安全指導の充実・徹底	組織的な指導を行い規範意識や職業意識を高めさせる。（挨拶等の礼儀作法、時間厳守、服装・頭髪チェック、授業規律等）		
		1年生から具体的な進路先を研究させ（各生徒に応じた適切なアドバイス、進路指導室の活用、パソコンでの情報収集など）希望進路実現に向けて取り組ませる。		
		進路指導部や担任との連携を密にし、生徒個々に応じた進路指導を行う。（面接、小論文、4年制大学進学対策等）		
開かれた学校作りの推進と地域との連携・PR強化	販売実習や地域の保育園及び小・中学生等への体験授業などを積極的に行い、地域に根ざした教育の充実を図る。			
	生徒（1年生～3年生）を出身中学校へ訪問させ（各専攻生産物持参）交流を深めることにより、学科のPRをする。			
	体験入学で中学生に対してアピールできるように、講座内容の工夫・改善を図る。			
生活科学科	基本的生活習慣・社会的マナーの確立	挨拶や正しい言葉遣い、高校生らしい服装や頭髪等、清潔感のある身だしなみについて、意味を考え自ら実践することのできる態度を身につけさせる。		
		授業開始・終了での指導を、共通理解を持って行う。		
		遅刻・欠席の届け出の徹底、事後指導について確実に行う。		
	学習成果を進路に結び付ける	農業分野とヒューマンサービス・フードデザイン分野との連携を図る授業の展開を行う。地域連携・外部講師による事業を積極的に導入する。		
		多くの生徒の希望に合うインターンシップ先の開拓を行い、進路指導につなげる。		
		進路カードの活用により生徒を把握し、学科職員の共通理解の基、担任を中心に進路指導を行う。		
あらゆる場면을学習発表の場と考え取り組む	八女農祭で生徒一人ひとりが活躍し、学習成果を発表し、地域へPRする。			
	各行事において規律や団結を学び、リーダーの育成を行い学科としての協力・生徒間の絆を深める。			
	プロジェクト学習の成果をまとめた発表会を行い、科学的思考力と問題解決能力を育成する。			